



第4章 まちづくりの重点テーマ

1. 苫小牧市の顔(都心部)づくり
2. 地域の魅力づくり
3. 冬も快適に暮らせるまちづくり

都市計画の各分野の基本方針を受けて、苫小牧市として重点的・横断的に取り組むテーマを設定し、それぞれの基本的な考え方と展開方向などを示します。

まちづくりの重点テーマ

まちづくりの目標と都市計画の各分野の基本方針を受けて、苫小牧市として重点的・横断的に取り組むべきテーマとして、「まちづくりの重点テーマ」を設定し、それぞれの基本的な考え方と展開方向などを示します。

テーマの設定にあたっては、中心市街地としての魅力と活力の低下が懸念されている都心部において、高次な都市機能の集積を図りながら都市の歴史・文化を継承し、これからの中小牧市の発展に向けた個性と魅力ある空間形成によって「苫小牧市の顔（都心部）づくり」を進めることを一つ目の重点テーマとしました。

二つ目の重点テーマとしては、少子高齢化社会に向けて、日常の生活活動の中心となる地域が、それぞれ生活利便性を向上させるとともに住民主体のまちづくりに向けてコミュニティを形成していくことが求められていることから、「地域の魅力づくり」を設定しました。

三つ目の重点テーマとしては、寒冷地として冬の寒さや雪氷を克服し、冬でも屋外での活動を楽しむ環境をつくることがまちの活力につながることから、「冬も快適に暮らせるまちづくり」を設定しました。

1. 苫小牧市の顔（都心部）づくり

1-1 苫小牧市の顔（都心部）づくりの基本的な考え方

48

もり 樹と海の恵みを感じられる都心部づくり

都心部には、新産業の立地・誘導を支える異業種間の情報交流機能や人材育成機能などさまざまな機能の集積が求められます。

また、都心部は樽前山麓の丘陵地の森林と太平洋の海岸及び港湾（特に漁港区）を結ぶ軸線上に位置しており、公園・緑地、街路樹といった樹の恵みと、海辺の景観・魚介類といった海の恵みの双方を感じることができる空間を形成していくことが期待されます。

そのため、JR 苫小牧駅を中心にして緑ヶ丘公園から海岸部に至る一帯を苫小牧市の顔（都心部）とし、さまざまな機能の集積を図るとともに、樹と海の恵みを感じられる空間形成を進めます。

また、「CAP（まちなか再生総合プロジェクト）」に基づき、暮らしやすい生活空間へと充実させ、定住人口や交流人口の増加を目指します。



市 街 地

1-2 苫小牧市の顔(都心部)づくりの展開方向

(1) 高次な都市機能の集積

① 研究開発型産業などの新産業の立地・誘導を支える機能の充実を図ります

環境関連産業や研究開発型産業の立地・誘導を支える機能が集積する苫小牧市の中核ゾーンとして、ビジネス創出、ビジネス交流の場となる産業インキュベーション機能や、情報・交流センター機能、人材育成、ベンチャー創業支援機能、さらには魅力ある飲食店街やホテル・宿泊機能など多様な交流機能の充実を図ります。

同時に、それらの施設、機能の集積を利用して、市民や企業が創作活動を自由、自発的に展開することができる場とすることにより、苫小牧市の芸術・文化の創造・発展拠点、生涯学習活動など市民の各種社会活動拠点となることを目指します。



札幌のビジネスカフェの事例
(インキュベーションスペースと併設)



文化交流センター（アイビー・プラザ）

49

② 脳わいのある商業環境の形成を図ります

都心部の商業等の活性化に向けて、情報・交流機能、文化芸術、娯楽、体験・交流機能などの集積を図ります。また、これらの都市機能を複合的に備えた大型集客施設の設置・誘導、空き店舗など既存施設の有効活用による機能集積を図ります。

都心部の魅力を向上させるためのソフト事業として、商店街として取り組んできたお祭りや各種イベントについて、より発展的に展開していくなど、商店街が一層元気になる仕組みを検討します。

③ 都心居住の推進を図ります

買物や医療などが整い、公共施設や公共交通網が充実した都心において、再開発の促進や共同住宅整備など民間活力を活かすとともに、老朽化が進む大規模団地の建替えに当たっては、一部まちなかへの移転建替え等を図り、土地の有効利用と公共施設の整備改善などを進め、生活環境の安全性、利便性、快適性を高めることにより、高齢者や子育て世帯など様々な世代の都心居住の促進を図ります。

*メセナ活動

企業による芸術文化の支援活動のことをいいます。

*NPO

特定非営利活動を行う法人格を与えられた団体。市民が行う自由な社会貢献活動の健全な発展を促進し、公益の増進に寄与することを目的としています。

(2) やさしく迎える街並みの形成

① 店先の彩りを図ります

地区計画、まちづくり協定などの都市計画施策の導入を検討するとともに、各個店の店先の歩道をプランターやベンチなどを利用して花を飾ったり、ガーデニングを施すなどの取り組みを行うことによって、来訪者をやさしく迎える雰囲気づくりを進めます。

また、都市景観形成基本計画に基づいて、道路の植樹帯に花を飾ったり、歩道にプランターを設置したりしながら、個々の商店の取り組みをつなげていくことで、街並み全体の雰囲気を徐々に変えていくことを目指します。



店先のガーデニング



道路を彩るプランターと花

50

② 歩きやすい道の形成を図ります

歩きやすい歩道が整備されたシンボルストリート、カルチャーストリートを活かしながら、周辺道路のバリアフリー化や電線類の地中化などを進めるとともに、沿道の商店、公共施設など建築物のバリアフリー化を促進し、**超高齢社会**に対応した誰もが安心して歩ける都心部の道づくりを進めます。

③ 駅周辺の交通拠点の利便性の向上を図ります

苦小牧駅はバスやJRなど公共交通の結節点として多くの市民が利用しています。そのため、交通施設などのバリアフリー改修や改善を進め、高齢者・障がい者を含めた誰もが使いやすい施設となるよう整備するとともに、まちなかと地域生活拠点を結ぶ公共交通のあり方を見直し、効率的で利便性の向上、快適性の高い公共交通体系を構築します。

また、駅前広場に散乱する自転車は、景観の阻害要因となっているばかりか、通行の支障にもなっていることから、駐輪場の整備検討や自転車を停める際のルールの徹底、マナーの向上などを図ります。



駅舎と自由通路

(3) 緑による潤いの演出

① 緑を大きく育てます

苦小牧駅からシンボルストリート、カルチャーストリートを通り、ふるさと海岸に至る空間を、街路樹や道路に面する敷地の緑を大きく育て、市民や来訪者が憩い、集う、苦小牧市の顔となるプロムナードの形成を図ります。

市役所など官庁の集積する地区では、建物敷地と道路の境界部分を積極的に緑化し、緑豊かな環境の形成を図ります。

② 空き地の演出を図ります

道路と建物敷地の間のちょっとした空きスペースや、商店街の駐車場や空き地などをを利用して、花や緑で彩ったり、ポケットパークや彫刻を設置することによって、市街地内の憩いと休憩の場、市民の創作活動の発表の場など、多様な役割を担う空間として活用します。



空きスペースに設置された彫刻

51

③ 緑に対する理解を促します

緑を大きく育てていくためには、「落ち葉が邪魔」、「日陰になる」などといった緑の負の面ではなく、「木陰が気持ちいい」、「季節感がある」など緑の良い面に沿道の住民が眼を向けることによって、潤いのある空間形成に対する理解を深めていきます。

このため、緑化計画の策定等の緑を育てるための計画づくりの初期段階から、市民団体、商店街などの各種団体、組織の参加を募り、具体的な緑化の取り組みを通して、理解と協力を得ていくこととします。

(4) 港まちの魅力の活用

① 市場の資源の活用を図ります

漁港区周辺には、花卉市場や卸売市場などが立地し、「ホッキ貝」など苫小牧市の新鮮な魚介類を安価で提供している専門店があります。また、本来は漁業関係者向けであった食堂が、来訪者の人気を得ているなど漁港区周辺は、海の幸を買ったり、味わったり、感じたりできる、港まち苫小牧市としての魅力にあふれる拠点となっています。

これらの資源を活用して、漁港区や市場を利用したイベントの開催などによって、市民や来訪者に苫小牧市の特産品等をアピールするとともに、漁港区周辺の環境整備を進め、漁業と調和したにぎわいのある風情、景観の形成を図ります。

さらに、市場の雰囲気を都心部でも感じることができるよう、駅前広場や公園を活用した朝市などの開催を促進します。



苫小牧市の海の幸（市場）



花卉市場で開催されたイベント

② 海辺とふれあう空間の形成を図ります

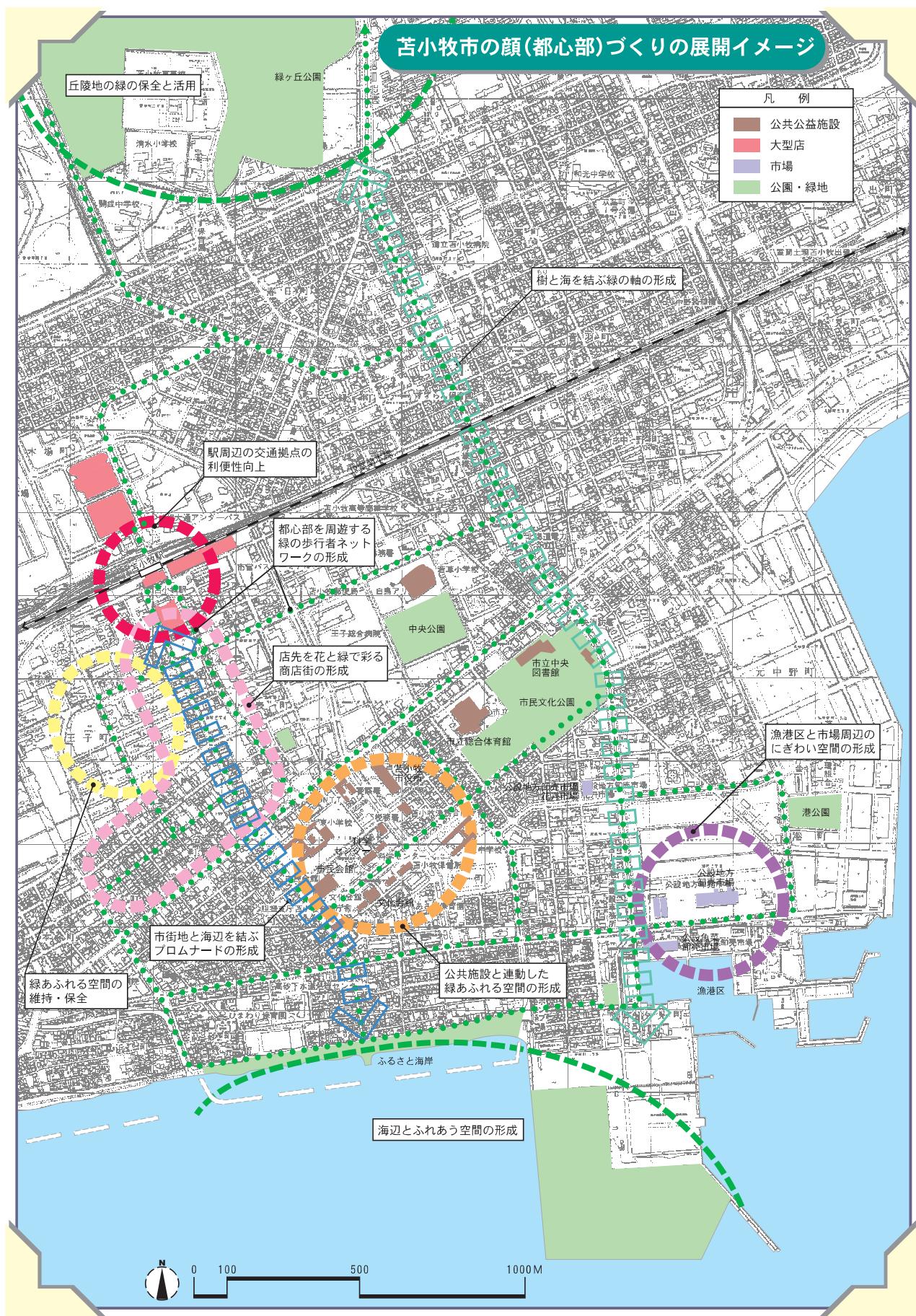
ふるさと海岸は、砂浜が広がる憩いの場として市民に親しまれており、地域住民による清掃活動など自主的な維持・管理活動を促しながら、海辺とふれあう空間として活用を進めます。

また、苫小牧港の埋立地等に関しては、花火大会やスポーツ大会などのイベント開催、緑地の整備などを進め、市民と港湾、海とのふれあいの場としての環境整備を進めます。

③ 海辺に人を誘う動線の充実を図ります

苫小牧市の都心部と海辺との距離は1～2km程度と近接していますが、臨海部の工業地として市街地と区分されていたこともあり、眺望や案内看板など海とのつながりを感じさせる空間要素が希薄で、港まちとしての雰囲気は乏しいものとなっています。

そのため、市街地と海辺を結ぶプロムナードの形成を目指して、海辺まで人々を誘う案内サインの設置や、海の幸を感じる市場や飲食店などをプロムナード沿いに誘導することによって、都心部と海辺との動線的、空間的な連続性を高め、苫小牧市ならではの個性と魅力の創出に努めます。



2. 地域の魅力づくり

2-1 地域の魅力づくりの基本的な考え方

地域の個性を活かした魅力あるまちづくり

苫小牧市は計画的に整備された住宅市街地が広がっており、それぞれの地域においては、地域の個性を活かした魅力あるまちづくり、高齢者や子どもたちが安心して暮らせる快適な地域づくりが求められています。

地域の魅力づくりの基本としては、利便施設、公共公益施設の集積など、生活に欠かせない施設、機能の充足による地域コミュニティの拠点を形成することが重要です。また、コミュニティの拠点と周辺の住宅市街地を結ぶ安全・安心な歩行空間ネットワークの形成による生活圏域の確立と、地域の歴史的蓄積や自然資源を活かした空間整備なども重要です。

また、苫小牧市全体の水と緑の骨格である、国道、道道などを利用した緑の東西軸と、樽前山の森林と海を結ぶ水と緑の南北軸について、地域ごとの独自の資源を活かしながら具体的に形成していく必要があります。



歩行者道路沿いの店舗

54

2-2 地域の魅力づくりの展開方向

(1) 地域での暮らしを楽しむ拠点の形成

① コミュニティ施設の活用を図ります

コミュニティセンターや児童センター、自治会館など、地域のコミュニティ施設や学校の余裕教室などを利用した地域住民どうしの交流機会を拡充することによって、お互いの顔が見える安心して暮らせるコミュニティの形成を図ります。

また、いくつかの地域で行われている住民の自主的な文化祭の開催、複数の町内会による共同での新年会の開催など、地域のニーズに応じて、子どもから高齢者までさまざまな世代の住民が参加できるように工夫しながら、町内会活動の活発化を図ります。

② 地域の公園の活用を図ります

地域ごとに計画的に配置されている公園の再整備等について、計画策定段階から維持管理段階まで、地域住民の主体的、積極的な参加と協力を得ながら進め、地域のきめ細かなニーズにこたえられる空間として活用していきます。

例えば、住民の手づくりで公園内にパークゴルフ場を整備することによって、地域の住民はもとより、市内の各地から多くの人が訪れるにぎわいのある空間の形成が図られています。さらに、小山などをつくることによって、ソリ遊びなど冬季間にも楽しめる公園づくりの工夫を図っていきます。



地域住民の手づくりのパークゴルフ場

(2) 地域の水と緑の潤いの育成

55

① 緑豊かな街並みの形成を図ります

計画的に整備された市街地は、年月が経つにつれて、緑豊かな環境に包まれた、落ち着いた街並みになっていきます。自分たちの住む地域への目配りや愛着を増すために、沿道に顔を向けた開放的な庭づくりや地域住民による桜並木づくりなどの取り組みを推進します。

また、歩行者専用道路や街路樹の整備された歩道などは緑豊かな歩行空間として、地域住民はもとより広く市民に親しまれています。このため、休憩スペースの設置など使いやすさの向上を図るとともに、地域住民の理解を得ながら樹木や落ち葉の管理など維持・管理面に住民が積極的に関わるよう促します。

公営住宅団地の建替整備などにあわせて、住棟間の空きスペースを公園や広場などの緑地として整備するとともに、周辺の人々も利用できるコミュニティースペースとして活用を図ります。



散歩道に設置されたプランター

② 水辺の憩い空間の形成を図ります

樽前山麓の森林と海辺を結ぶ水と緑の南北軸として、各地域を流れる小河川沿いの緑化を進めるとともに、水辺をゆったりと散策できる川沿いの散歩道などの設置を進めます。

また、水辺を市民に親しまれるものにするために、町内会などによって実施されている公園や河川の清掃活動など自主的、自発的な公共空間の維持管理活動をより一層促進します。



川沿いの散歩道

③ 歩きやすい歩行空間の形成を図ります

地域住民の散策や買い物、通学などの移動経路として親しまれている歩行者専用道路や主要な歩道について、地域住民や高齢者などに歩きやすさを確認してもらいながら、バリアフリーへの配慮が必要な部分についての改善を図り、高齢者や車いす利用者など誰もが歩きやすい道にしていきます。

また、歩行者専用道路はもちろん一般道路の歩道も含めて、実のなる木を植えたり、プランターを飾るなど地域住民の参加と協力を得ながら歩いて楽しい歩行者ネットワークの形成を図ります。

一方で、並木道は夜になると暗いなどの問題もあるので、必要に応じて街灯の設置など安全面、防犯面にも配慮します。



みんなで歩きやすさをチェック

3. 冬も快適に暮らせるまちづくり

3-1 冬も快適に暮らせるまちづくりの基本的な考え方

冬でも戸外に出て楽しくすごせるまちづくり

苫小牧市は、昭和41年にスポーツ都市宣言を行い、全国的に知られたスケートのまちとして白鳥アリーナをはじめとするスケートリンクの整備が進んでいます。また、毎年2月には冬のイベントとしてスケートまつりが開催され、多くの市民や来訪者が冬を楽しんでいます。

一方で、積雪量は少ないものの、冬季間の寒さによって道路・歩道が凍結し、交通安全や安全な歩行の障害になるなど、寒冷地としての厳しさもあります。

そこで、スケートのまちとして冬でも戸外に出て楽しく活動できる空間の形成を図るとともに、冬の厳しさを行政と市民のパートナーシップによって少しでも和らげることにより、冬でも安全で快適な市街地の形成に努めます。

3-2 冬も快適に暮らせるまちづくりの展開方向

(1) 冬を楽しむ活動空間の形成

① スケートを楽しむ活動空間の形成を図ります

スケートのまちとして、近代的な通年型屋内リンク「白鳥アリーナ」が整備され、実業団のアイスホッケーの日本リーグの開催をはじめ、大学の夏合宿、高校及び小中学校の各種大会が多数開催されています。他にも「ときわスケートセンター」、「沼ノ端スケートセンター」などの施設が整備されており、今後とも、これらの施設を活用しスケートを通じた市民活動及び交流の推進を図ります。

また、地域の公園や学校のグラウンドを利用した手づくりのスケートリンクなど、生活と密着した身近に冬を楽しむ活動空間の形成を図ります。

57



通年型屋内リンク「白鳥アリーナ」

② 冬を楽しむイベントの開催を図ります

スケートのまちにふさわしい冬のイベントとして、「とまこまいスケートまつり」が開催され、大小の雪像や氷のすべり台が作られ、ホーキングホッケーや氷上綱引きなど、子どもから大人まで楽しめるお祭りとして、多くの市民や来訪者を集めています。

また、オートリゾート苫小牧アルテンでは、冬の厳しさ、素晴らしさを体感する親子ふれあいウインターランチが開催されています。

今後、市街地内の公園等の冬季における積極的な活用を図り、冬の厳しい寒さのなかでも、屋外での活動を楽しむイベント等の開催を推進します。



とまこまいスケートまつり

(2) 冬でも安全で快適な市街地の形成

① 冬期間のバリアフリーの推進を図ります

冬でも誰もが安全に快適に歩ける空間づくりを進めるために、歩きにくい、滑りやすいといった冬期特有のバリアの改善に向けて、歩道除雪の充実、凍結抑制効果がある特殊舗装の導入、バス待ち環境の整備など、冬季間のバリアフリー化に配慮した施設整備の推進を図ります。

また、都心部や地域コミュニティの拠点などの施設において、シェルターなど天候の影響が小さい歩行空間の確保を検討します。

② 市民と行政のパートナーシップによる冬期間の対策の推進を図ります

冬でも安全で快適な市街地の形成に向けて、横断歩道や交差点周辺の除排雪への協力、ツルツル路面への砂や融雪剤の散布に対する協力など、市民と行政が協力して効率的・効果的な冬季間の対策の推進を図ります。

また、移動に困っている人を見かけたら、誰もが気軽に手助けするなど、市民一人ひとりが互いに助け合う、思いやりの心を育むよう努めます。

市の鳥 ハクチョウ



第5章

地域別構想

1. 地域別構想策定の主旨
2. 地域別構想

苫小牧市の市街地を生活圏などから 6 つの地域に区分し、都市計画の各分野ごとの基本方針を受けた、地域の個性を活かした地域の将来像と整備方針を示します。

1. 地域別構想策定の主旨

(1) 地域別構想策定の主旨

第2章、第3章では、都市の将来像とまちづくりの目標、将来の都市構造、及び都市計画の各分野ごとの基本方針として、広い視点から苫小牧市全体の骨格的な都市計画の方針を示しました。

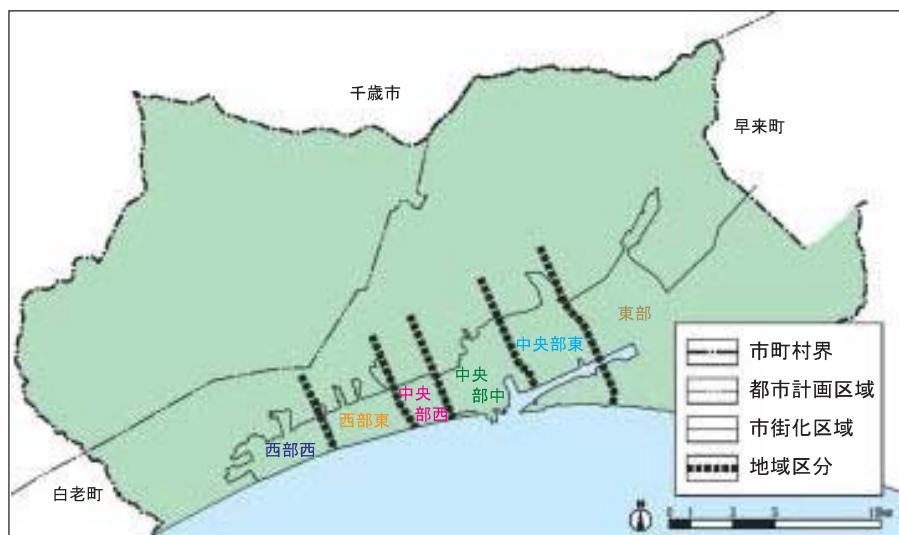
一方、個々の地域においては、抱えている問題や課題、地域の特色はそれぞれ異なっていることから、よりきめ細かな対応が必要になります。

このため、地域のまちづくりは、地域のことをよく知っている住民が主体となりつつ、行政とのパートナーシップで進めていくことが重要になります。

地域別構想は、苫小牧市の市街地を生活圏などから6つの地域に区分し、苫小牧市全体の骨格的な方針を踏まえたうえで、身近な視点からのまちづくりの方向として、各地域ごとに将来像と都市計画としての整備方針を定めたものです。

地域別構想は、住民・事業者・行政が地域のさまざまな課題やまちづくりの目標、方向性を共有しながら、適切な役割分担のもと、互いにパートナーとしてまちづくりを進めていく際の指針となるものです。

- 西部西地域**：小糸魚川以西の地域
- 西部東地域**：小糸魚川から苫小牧川の間の地域
- 中央部西地域**：苫小牧川から製紙工場の間の地域
- 中央部中地域**：苫小牧市の都心部の地域
- 中央部東地域**：幌内川から明野川の間の地域
- 東部地域**：明野川以東の地域



地域区分図

(2) 地域別構想策定の流れ

地域別構想の策定にあたっては、各地域の代表者等からなる「地域別懇談会」を組織し、6つの地域を2日間に分けて、それぞれ3回の懇談会を開催しました。

地域別懇談会では、地域の資源の確認や発掘、問題・課題の認識と共有化から始まり、地域づくりのテーマの設定、各地域の将来構想の内容検討など、順を追って地域づくりの方向性について検討を行いました。

その後、庁内の「まちづくり推進会議」において、各地域の身近な視点を活かした、地域別構想の策定を行いました。

地域別懇談会の開催経緯

開 催 日	検 討 内 容	参加者等
第1回 平成15年9月2日 平成15年9月3日	・各地域ごとの特性と課題の抽出	・13グループ ・78人
第2回 平成15年10月21日 平成15年10月22日	・各地域ごとの検討テーマの抽出 ・実現に向けたアイデアの検討	・13グループ ・73人
第3回 平成15年11月25日 平成15年11月26日	・各地域の将来構想（たたき台）の検討	・11グループ ・60人

(3) 地域別構想の構成

① 地域の現況特性

各地域の概要・沿革、人口・世帯数の状況、都市基盤の整備状況を整理するとともに、地域別懇談会での意見を地域の資源・アイデアマップとしてとりまとめました。

② 地域の主要な課題

各地域の地域整備に係る主要な課題を整理しました。

③ 地域の将来像

地域の現況特性と主要な課題、地域別懇談会での意見をもとに、各地域の将来像を示します。

④ 地域の整備方針

地域整備の考え方として、地域の将来像を実現するために各テーマに沿った機能を集積させるゾーンの形成と、それらのゾーンを機能的に結びつける軸の設定の考え方を示します。

部門別の整備方針として、土地利用、交通体系、水と緑、都市施設、都市防災といった都市計画の各分野ごとの整備方針を示します。

2. 地域別構想

2-1 西部西地域

(1) 西部西地域の現況特性

① 地域の概要・沿革

西部西地域は、苦小牧市の最も西に位置し、樽前山の豊かな森林と海岸線に挟まれた2km程の平地に市街地が形成されています。

本地域の中心となっている錦岡地区は、昭和30年代後半からの公営住宅団地の建設・整備とともに人口が増加し、昭和50年代以降、土地区画整理事業などによって大規模な宅地造成が進められ、住宅市街地が築かれてきました。

平成10年に苦小牧駒澤大学が開学し、在来の国立苦小牧工業高等専門学校とともに、市内の高等教育の中心的な所在地となっています。

② 人口・世帯数の状況

人口はこの10年間で減少に転じていますが、世帯数については、増加を続けています。高齢化率は23%と、全市平均より若干高く高齢化が進展しています。

③ 都市基盤の整備状況

地域の中央部を東西に横断する道道苦小牧環状線沿いに沿道利用型の店舗の立地地区がみられる他は、地域の大半が住居系の土地利用となっています。

JR錦岡駅が通勤・通学で利用されているほか、市営バス錦西営業所もあり、バスの発着の拠点となっています。また、道央自動車道の苦小牧西インターチェンジに近く、高速道路網とのアクセスがよくなっています。

錦大沼公園、北星公園など苦小牧市を代表する公園がある他、土地区画整理事業によって計画的に近隣公園※、街区公園が配置・整備されています。

のぞみ町に「コミュニティセンター」、ときわ町に「ときわスケートセンター（通年リンク）」があり、多くの人に利用されています。

人口・世帯数の推移と高齢化の状況

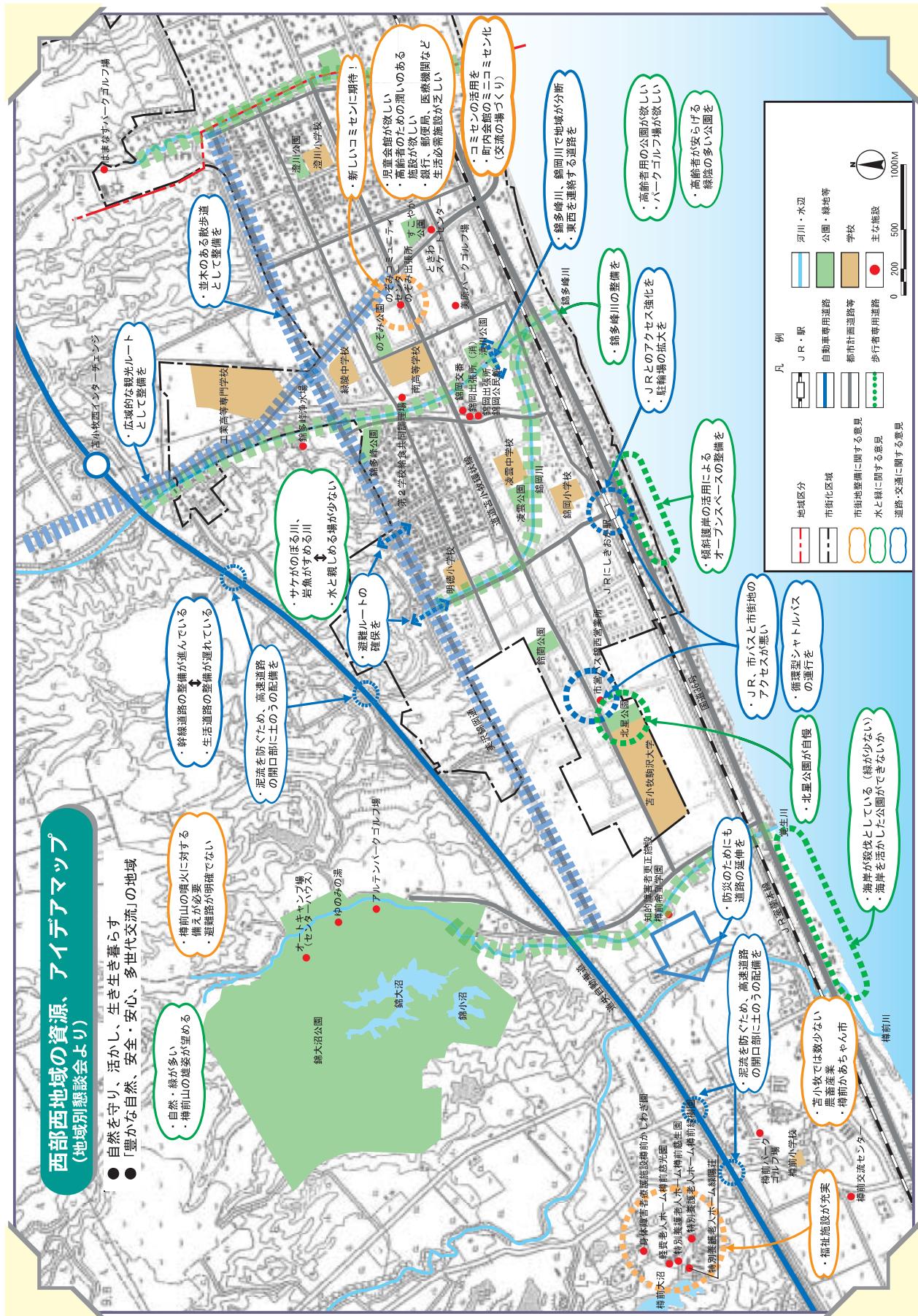
地域名	人口		人口増減率 H12年 H22年	世帯数		世帯増減率 H12年 H22年	世帯人員数 人/世帯	高齢者	
	H12年	H22年		H12年	H22年			高齢者数	高齢化率
西部西	27,123	25,794	95%	10,588	11,492	109%	2.24	5,915	23%
西部東	45,871	42,335	92%	18,048	19,507	108%	2.17	9,817	23%
中央部西	26,360	23,324	88%	11,933	12,086	101%	1.93	6,489	28%
中央部中	43,289	41,644	96%	20,391	21,532	106%	1.93	8,849	21%
中央部東	12,682	12,730	100%	4,963	5,879	118%	2.17	1,821	14%
東部	17,842	28,311	159%	7,194	12,149	169%	2.33	3,380	12%
全市	173,167	174,138	101%	73,117	82,645	113%	2.11	36,271	21%

※近隣公園

主として近隣に居住する者の利用に供することを目的とする公園で、誘致距離500m、面積2haを標準とします。

西部西地域の資源、アイデアマップ (地域別懇談会より)

- 自然を守り、活かし、生き生き暮らす
- 「豊かな自然、安全・安心、多世代交流」の地域



この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したものである。(承認番号) 平16道復第329号

(2) 西部西地域の主要な課題

- 市街化区域内の未整備地区における良好な住環境の形成や、老朽化した公営住宅団地の改善を図ることが求められています。
- 地域の生活の拠点となる交流や医療・福祉機能が集積した地区の形成を図ることが求められています。
- 樽前山に最も近い地域として、火山災害の発生など緊急時に応じた交通体系の整備を図ることや、地域住民の防災意識の高まりに対応した防災対策の充実、強化を図ることが求められています。
- 樽前山の森林地帯の保全・育成を図ることや、河川など水と緑の空間を市街地整備に活かしていくことが求められています。

(3) 西部西地域の将来像

豊かな自然とともに、みんなが生き生きと暮らす地域づくり

樽前山の森林、樽前川、錦多峰川、小糸魚川などの河川、苦小牧市の代表的な公園の一つである錦大沼公園など豊かな自然に恵まれた地域特性を活かし、防災対策の充実、強化、交流の場の充実及び高齢化の進行に対応しつつ、子どもから高齢者まで地域に居住するみんなが生き生きと暮らせる地域を目指します。

64

(4) 西部西地域の整備方針

① 地域整備の考え方

道道苦小牧環状線を地域の生活軸とし、徒歩圏を考慮しながら軸上に日常の生活利便施設が立地する生活中心拠点形成ゾーンを配置するとともに、JR錦岡駅、明徳団地を囲む一帯を苦小牧市西部のコミュニティ拠点（第2章の都市構造参照）として生活利便機能の集積を図ります。

美沢錦岡通、国道36号を東西方向の骨格的な交通軸とし、広域的な交通流動、通過交通に対応するとともに、苦小牧市の西の入り口にあたる部分を沿道景観形成ゾーンとし、道路・建物景観の改善や計画的な誘導などを図ります。

苦小牧駒沢大学、苦小牧工業高等専門学校などの高等教育機関の立地を活かして文教ゾーンを配置し、地域住民による施設利用や、学生や学識者などとの交流など、地域に開かれた施設として連携を図ります。

生活軸に直交する河川沿いを水と緑の軸とし、水と緑に親しめる空間の形成を図ります。また、錦大沼公園は水と緑の交流ゾーンとし、自然を活かした交流拠点としての維持・向上を図ります。

樽前地区の既存の農村集落は田園居住ゾーンとし、農業を基盤とした都市と農村との交流拠点とします。

② 部門別の整備方針

【土地利用の方針】

JR 錦岡駅の周辺、道道苦小牧環状線沿いに立地するコミュニティセンターや市の出張所などを中心に、地域住民の日常生活を支える商業地の形成を図ります。

計画的に整備された住環境の保全を図るとともに、市街化区域内の未整備地区において良好な住環境の形成を図ります。

また、地域内にある長期的未利用地については、周辺環境に配慮しながら、土地所有者の意向を踏まえ周辺住民のニーズに対応した生活利便機能などの立地を誘導し土地利用の活用促進を図ります。

市街化調整区域においては、樽前など既存集落の土地利用の維持、生活環境基盤の充実を図ります。

【交通体系の整備方針】

通過交通に対応した主要幹線道路として美沢錦岡通の整備を進めるとともに、樽前方面への延伸を図り、火山災害の発生など緊急時に円滑に対応できる錦岡と樽前を結ぶ幹線道路の充実強化を図ります。

公共交通に関しては、JR錦岡駅、市営バス錦西営業所など交通結節点のバリアフリー化を重点的に進めます。また、生活軸に設定した道道苦小牧環状線を中心に、バリアフリーへの配慮などによる誰もが安心して歩ける歩道の整備や、自転車専用レーンの設置を図ります。

【水と緑の形成方針】

地域内を流れる河川について、河川敷の緑化や散策路の整備など、地域住民が手軽に水と緑に親しめる空間の形成を図ります。

また、市街地と田園地域とが接するという本地域の特性を活かし、農地や森林など緑地景観と調和した魅力ある市街地景観の形成を図ります。

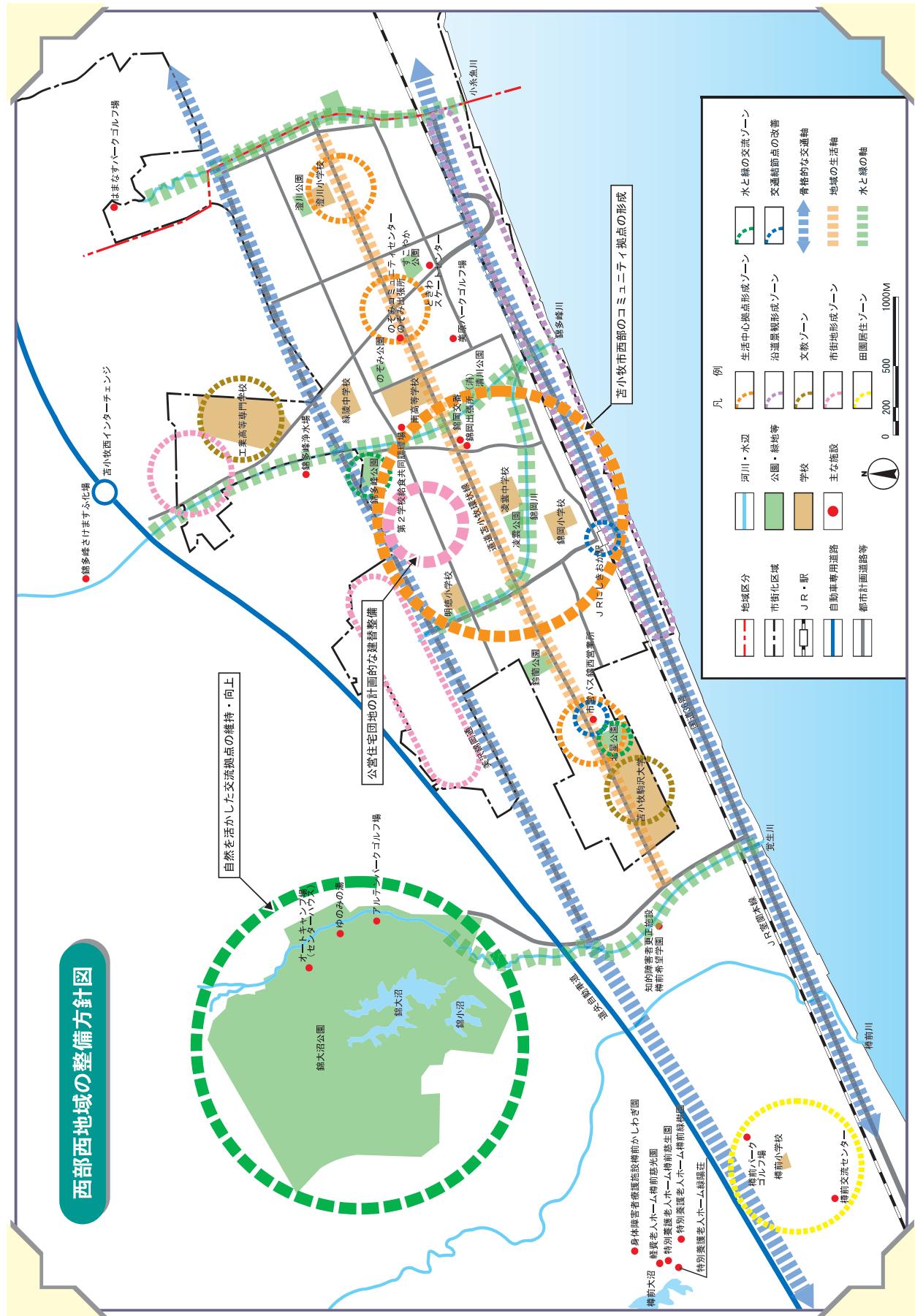
【都市施設の整備方針】

市内西部の上水道水源である錦多峰浄水場が立地していることから、水源地の樽前山麓の森林地帯の保全・育成に努めます。

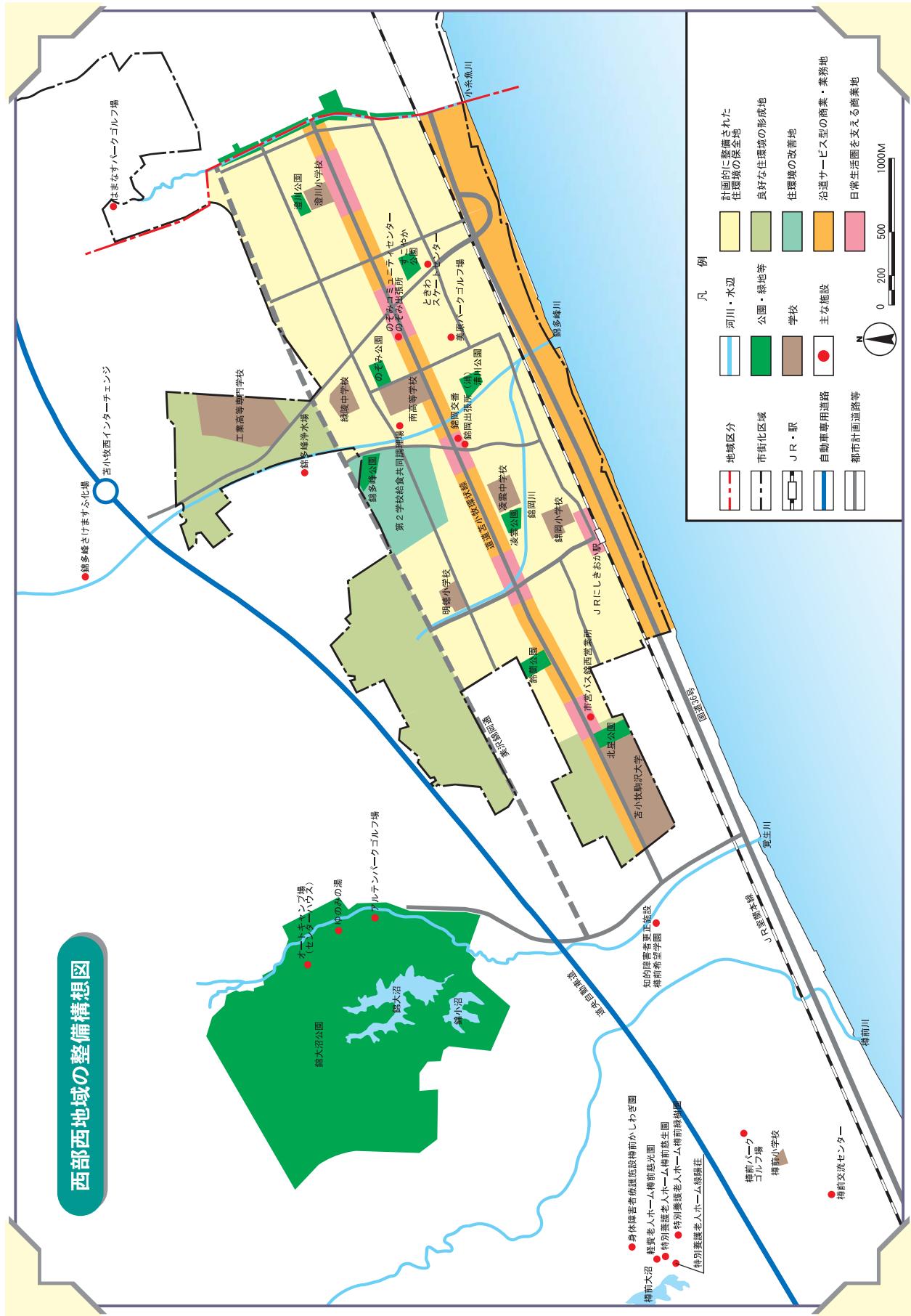
【都市防災の方針】

西部西地域は市内で最も樽前山に近い市街地であり、近年の防災意識の高まりもあって、災害に強いまちづくりに向けた地域住民の関心は非常に強いものがあります。

樽前山の噴火による火山災害対策を進めるために、砂防ダム・遊砂地・流路工等の整備、監視装置等の整備を進めるとともに、日常的な住民の交流機会や活動の場を積極的に提供・促進し、地域住民一人ひとりの防災意識と災害時の対応力の向上を図ります。



西部西地域の整備構想図



2-2 西部東地域

(1) 西部東地域の現況特性

① 地域の概要・沿革

西部東地域は、苫小牧市の西側に位置する地域で、樽前山の豊かな森林と海岸線に挟まれた平地に計画的に整備された市街地が広がっています。また、沢に沿って市街地が形成されています。

地域内には、小糸魚川、小泉の沢川、豊木川、苫小牧川などが流れ、小糸魚川、苫小牧川の一部は親水整備が行われ、多くの市民に利用されています。

JR室蘭本線より北側は、昭和40年代に計画的に開発・整備された糸井団地を核に、昭和50年代後半にかけて土地区画整理事業などによって住宅地整備が行われた地区となっています。

JR室蘭本線より南側は、海岸線との間に挟まれた東西に細長い地区となっています。

② 人口・世帯数の状況

人口はこの10年間で減少に転じていますが、世帯数は増加しています。高齢化率は23%と、高齢化が進展しています。

68

③ 都市基盤の整備状況

JR室蘭本線より南側の国道36号沿道は店舗・事務所等の業務施設が立地した準工業地域となっており、道道苫小牧環状線沿いに沿道立地型の店舗が立地し、日常的な生活の中心地となっている他は、地域の大半が住居系の土地利用となっています。

JR糸井駅が通勤・通学で利用されているほか、主な幹線道路がバス路線となっており、公共交通の便が良くなっています。

地区西端の川沿公園をはじめ、土地区画整理事業などによって計画的に近隣公園、街区公園が配置・整備されています。糸井公園、あかつき公園には、地域住民の管理によるパークゴルフ場があり、多くの人たちに利用されています。また、道道苫小牧環状線沿いに歩行者専用道の「木もれびの道」が整備され、地域住民に親しまれています。

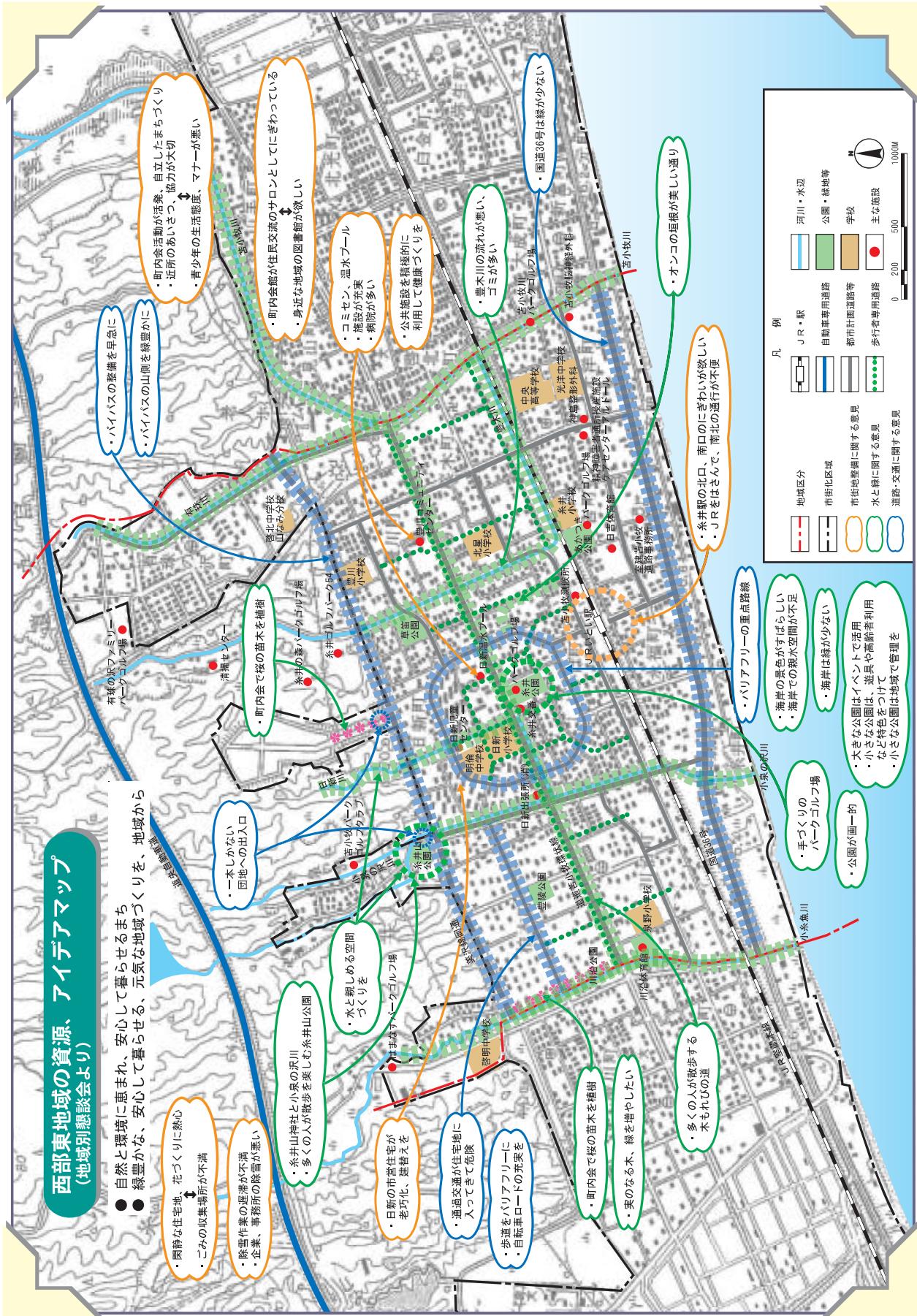
地区の中心部に「豊川コミュニティセンター」が設置されている他、「日新温水プール」などがあります。

人口・世帯数の推移と高齢化の状況

地域名	人口		人口増減率 H12年 H22年	世帯数		世帯増減率 H12年 H22年	世帯人員数 人/世帯	高齢者	
	H12年	H22年		H12-22	H12年	H22年		高齢者数	高齢化率
西部西	27,123	25,794	95%	10,588	11,492	109%	2.24	5,915	23%
西部東	45,871	42,335	92%	18,048	19,507	108%	2.17	9,817	23%
中央部西	26,360	23,324	88%	11,933	12,086	101%	1.93	6,489	28%
中央部中	43,289	41,644	96%	20,391	21,532	106%	1.93	8,849	21%
中央部東	12,682	12,730	100%	4,963	5,879	118%	2.17	1,821	14%
東部	17,842	28,311	159%	7,194	12,149	169%	2.33	3,380	12%
全市	173,167	174,138	101%	73,117	82,645	113%	2.11	36,271	21%

東部地域の資源、アイデアマップ
(地域別懇談会より)

- 自然と環境に恵まれ、安心して暮らせるまち
 - 緑豊かな、安心して暮らせる、元気な地域づくりを、地域から
　　・一本しかない、
　　・固定地への出入口
 - 開拓した住宅地、花づくりに熱心
　　・開拓した住宅地、花づくりに熱心
　　・ごみの収集場所が不適
　　・除雪作業の運営が不適
　　・企業、事務所の除雪が悪い



この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したものである。(承認番号) 平16道複第329号

(2) 西部東地域の主要な課題

- 計画的に整備された住宅地の良好な住環境の維持・保全を図ることや、未整備地区における良好な住環境の形成を図ることが求められています。また、老朽化した公営住宅団地の改善を図ることが求められています。
- 地域の生活の拠点となる交流や医療・福祉機能が集積した地区の形成を図ることが求められています。
- 市内の西部に位置する地域として、中心市街地や東部の工業・業務地と本地域を結ぶ東西方向の交通体系の整備を図ることが求められています。
- 木もれびの道や河川及び河川沿いの緑地空間、親水空間が豊富に存在し、町内会による植樹や河川の清掃活動など地域に愛着をもたれている水と緑の空間を、より市民に親しまれるよう充実させすることが求められています。
- 地域住民の高いコミュニティ意識を活かした防災対策の充実、強化を図ることが求められています。

(3) 西部東地域の将来像

創ろう！緑豊かな、安心して暮らせる、元気な地域づくり

70

樽前山の森林から流れる多くの河川、木もれびの道など緑豊かな自然に恵まれるとともに、計画的に整備された良好な都市基盤が整っている地域特性を活かし、地域が主体となった安心して暮らせるコミュニティづくりを図ることを基本に、日常生活の利便性の向上、緑豊かな自然と親しむ場づくり、既存施設を活かした交流活動の拡充などを進め、安心して暮らせる元気な地域を目指します。

(4) 西部東地域の整備方針

① 地域整備の考え方

道道苦小牧環状線を地域の生活軸とし、徒歩圏を考慮しながら軸上に日常の生活利便施設が立地する生活中心拠点形成ゾーンを配置するとともに、JR糸井駅、糸井公園、日新団地を囲む一帯を苦小牧市中西部のコミュニティ拠点(第2章の都市構造参照)とし、生活利便機能の集積を図ります。

美沢錦岡通、国道36号を東西方向の骨格的な交通軸として広域的な交通流動、通過交通に対応します。

東西方向の木もれびの道、及びそれらと直交する河川沿いを水と緑の軸とし、水と緑に親しめる空間の形成を図ります。



木もれびの道

② 部門別の整備方針

【土地利用の方針】

JR糸井駅の周辺、道道苦小牧環状線沿いに立地する豊川コミュニティセンターや日新温水プールなどを中心に、地域住民の日常生活を支える商業地の形成を図ります。

JR室蘭本線南側の糸井鉄南第二地区などの未整備地区において良好な住環境の形成を図ります。

【交通体系の整備方針】

通過交通に対応した主要幹線道路である美沢錦岡通の整備を進めます。美沢錦岡通は樽前山麓と市街地の境界線を通ることから、地域の住環境と樽前山麓の自然環境を同時に維持・保全するため、沿道の土地利用を制限する緑豊かな幹線道路として整備を図ります。

公共交通に関しては、JR糸井駅など交通結節点のバリアフリー化を重点的に進めます。また、生活軸に設定した道道苦小牧環状線を中心に、バリアフリーへの配慮などによる誰もが安心して歩ける歩道の整備や、自転車専用レーンの設置を図ります。

【水と緑の形成方針】

地域内を流れる河川や木もれびの道等の歩行者専用道路について、地域住民の維持・管理活動への参加を促しながら、より手軽に水と緑に親しめる空間となるよう充実・整備を図ります。

71

【都市施設の整備方針】

昭和40年代に建設された公営の日新団地は、老朽化とともに入居者の高齢化が進んでいることから、計画的な建替整備により、バリアフリー化の推進など居住環境の向上を図ります。

【都市防災の方針】

日常的な住民の交流機会や活動の場を積極的に提供・促進し、地域住民一人ひとりの防災意識と災害時の対応力の向上を図ります。

西部東地域の整備方針図



